A.　Tamaboko no, michi-yuku-hito no, kotodsute mo ;
　　taete hodofuru, samidare no sora.

B.　Kakubakari hegataku miyuru yononaka ni ;
　　urayamashiku mo, sumeru tsuki-kage.

C.　Charity sufereth long, and is kind ;
　　envieth not, vaunteth not.

女學雜誌第貳拾六號目次

●社説　父母のめぐみ
●新報　十四則
●叢話　男女交濟論○西洋禮式第八○女學隨筆をみなへし第一○衣物と身分○腹帶のこと○米婦人希臘の婦人へ送れる文
●批評　婦人世界週遊記の評
●論説　女子教育策の一端
余白なくして次号へ譲るもの左の如し
○西洋婚姻談○日本婚禮の風俗集○佳傳のうち梅香女史の傳其外○内國女學校集報の二○寄書詩歌○

甲　たま鉾のみち行く人のことづても絶てほどふる五月雨のそら
乙　かくばかりへがたく見ゆる世の中にうら山しくも澄る月かげ
丙　愛はよく忍び親切にして人を妒まず誇ることとなし

●珊瑚の玉（五）

●紫式部曰く皆人おとにものゝならざるうちも人のいさめどもよく容れ道を守るの心あり其望とかなへ得て心のまゝなるときハミなおごりになりて尊きをいやしみ賤きをあなどるこのゆへにこそもろ〳〵佛神の望をかなへかねたまふなり其望をかなへてあしからしめんよりかなへずしてよからしめんは誠に大悲大慈なるべし

●小督局曰くあやしきことをかたるハ必らずその心たゞしからぬ人の云ふことなりたゞつねならむぞ万づたがふことなし

●ナポレオン第一世女博士カムペンに問ふ今日ゟ佛蘭西の教育に於きて尤も欠くるところは何ぞやとカムペン答て申すやう母なり母なりと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第貳拾六號（明治十九年六月十五日）

●社説

○父母のめぐみ

かくばかり僞多き世の中に己れを思ふ誠は父母の愛情ならん生れ出で、東西を知らぬ夜となく晝となく泣き叫び襁褓をけがしては尊き御手を煩はしいさゝめのなやみにも夜の目を安んぜ奉らずやう〳〵匍匐ふ頃となるまでは父母の困難幾層ならんかそれよりは虫氣、時候當り、はやり病ひ、食過ぎ、いたづら、惡あそび、大凡そ一として父母の御思を己づらはさぬはあらざるべし父人となりては學文の敎育よりぬひ針立ち居の禮式まで何事にも皆其御世話なり若し愛情と云へる誠のあらざりせば何如なる温厚の人なりとも天下に一人としてよくかゝる難澁をなし玉はるべきはあらざるなり此間御言に反きて遊び怠もありぬべく敎に違ひて惡き行もあるべきに過ある毎に父母の己れを思ひ玉ふ御心は深うなりて不孝の子をもなほ憫れみたまふの切なると何如なればかくやさしくはあり玉ふらん父母の誠を万分一にも思ひ當らざる吾人と雖ども之を思ふときは心腸感謝の念を以てみち充るを覺ゆるなり昔しより和文の摸範となれるものに土佐日記といへるあり誰もこれを讀みて其能文を感歎するとなれども吾人は之を見るごとに未曾て其の文辭の宜しきには心をつくる能はず貫之が其女を思ふまごゝろの切なるを測りては全篇たゞ悼兒の言葉と見へて常に涙にむせぶと也此日記のあちこちに

あるものと忘れつゝなほなき人をいつくと問ぞ悲しかりける

世の中におもひあれども子をこふるおもひにまさる思なき哉

うまれしもかへらぬものをわか宿に小松のあるを見るが悲しさ

などよみ出でたる心根と思ひやれば當時貫之の風流にも播磨の洋、すま明石の浦、はみにくかりけんと考ふるにつれて父母のわれらを思ひ玉ふ愛情は皆かゝるべしと測られていと〴〵有がたく感謝の念にたへざるなり

むかし或人に子二人ありその季子父に乞ひて我得べき身代の分ちを得幾日も經ざるに遠國へ旅行せしが放蕩にして其資を皆そこにて耗やしけり尽く耗しゝとき大なる饑饉その地にありて彼ともしく爲はじめければある人に身を寄せて豕を牧ひ豕の食する豆莢をもて己が腹をみたさんと思ふ程なりしが何をも彼に與ふる人なし彼すなはち顧みて思ふ様は我父の所には食物あまれる傭人のあまたあるに我は饑て死んとすたとひ今歸りたらば父の子とは稱えらるまじくともその傭人の一人の如く爲し玉はれと願ひなば豆莢を食ぶる苦さにはまさりつべしとつゐに起て父

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の許に歸らんとす尙とほくに在りしに其父かれを見て家を走り出で其頸を抱きて接吻しぬ彼その父に曰ふるハ父よ我天と爾に前に罪を犯したれバ爾の子と稱らるゝにハ足らざるなりどされど父はその僕等に命じけるハ至も美き服を持來りて之に衣せ其指に環をはめ其足に履を穿せよまた肥たる犢を牽來りて屠れ我儕ともに食して樂しまんとて喜びけり此れ聖書に載する談話にして罪ふかき子供ども尙あはれミ玉ふ父の愛情の切なるをよく示せり。又むかしある所に老たるを棄つる恐しの國ありけりある男子その母の年とりたれバとて習ハせの如く之を脊負ひ山路ふかく分け行きて之を棄てんとするに母ハ負ハれながら途々の木々の枝を折りたり男子あやしみてそハ何をし玉ふと云ふにわれは年老ひて此奥に棄てられんといさゝかも身を惜しとハ思ハざれどかく山ふかく分け入ては汝の歸り路をや失ハんと心に掛りて汝が途の枝折とゞめをくとよと言へり此れ支那及び我國にふるくより言ひ來れる談話にして已の身の棄らるゝをも忘れて其子を思ひ玉ふ母の愛情ハ切なるをよく示せり惣じて父母の子を思ふ愛情ハみなかくあるべし或人の歌よ

われをよにうめる、そのちゝははの。めぐみはちひろの、
うみよりふかく。そらにそびへたる、やまよりたかし。

われはちゝはゝの、めぐみをしれり。
われちゝのひざを、まくらとなして。はるの日のどかよ、
たゞむれくらし。ははのふところを、ねどことなして。
あきのよしづかに、ねむりあかせり。
ちゝはてをとりて、われをあゆませ。ははハいだきてぞ、
われをふさしむ。さむからぬみにも、ころもをかさね。
うゑざるはらにも、ちちをみたせり。

父母の愛情大率かくの如し子たるものよく之を思ハざれバ其罪尤も深かるべし特に娘子たちは体よハく力足らざるものゆゑ父母の保護をうくる事尤もふかく人となりてハ他家に緣づきて高恩をかえすの便なしゝ之を男子に比ぶれバ父母に負ふところ更に深しと云ふべき歟去れバ他に緣づくまでハことさらによく孝をつくし一生ハ高恩を僅かの年のうちに報ひ奉るとの覺悟をつねぐ心にいだくこと大切なりまた他所に緣づきてハ已が父母もまだ他所よりの嫁と子としてその實娘に代へ切てものなぐさめとなしたまふ趣を思ひあハせ夫の父母を眞の兩親と思ひて孝を尽すこと大切なり娘孃方ゑなく〱に此の心掛あるときハ早くわが家をはなれて他にゆくとも已に代りて孝養すべき人あるとよ心を安んじ其身ハ嫁ぎたる家のしうとしうとめに道を尽し双方相

代りて初て子たるの務をいたし得べきなり此故ゑ大凡ろ子たるものはミな深く父母の恩を思ハざるべからざろのうちにも女ハわきてふかく恩を謝そるの行を爲すべきと當然の道なりと心得べし

●新報

○京都看病婦學校

前号ゑ報じ置たる同學校設立の趣旨書ハ左の如くなり此校の吾國に切要なる趣ハ左の書中に委しく述べられたれバ別に贅せざれど有志の人々の奮て之を賛成し應分の義捐を爲されんとを勸む發起人ハ皆な吾人の知己なれバ義捐金を送らるべき人のためにハ吾社に於て取次の勞を辞せざるべく且つ此校の爲に應分の微力をも盡さんとを期望せり

彼れ有名なるクリミヤの役に英國の士卒多く傷を蒙り又多く病に罹りしかバ戰地なる軍人病院に於て看病人の欠乏を告ぐると頗る急なりしに由り英國政府乃ち遍く全國の婦女子ゑ訴へ以て其看病人を募召せしに勇婦烈女の之に應ぜしもの尠からざりしが其中最も有名なるものは即ち彼のフロレンス、ナイティンゲールなり彼れ衆に先て出で至誠人を憐むの心眞實基督を愛そるの情に勵まされ富裕なりし我住家安穩なりし我郷園と離るゝを厭はず戰場に暴露し彈丸を犯すの覺悟を以て遠く異郷の客となり傷士病卒の爲めに其勞を惜まず日夜孜々必死以て其職を尽せしかバ患者皆其恩愛に感じナイティンゲール女れ影とぞも慕ひしと云ふ程なりしが役終りて後英國政府深く此女の功を賞し報ゆるに巨額の金を以てせしに此女其一錢をも私に用ひず悉皆之を擲ち直に一つの看病婦學校を設立し之を一の病院に連帶せしめ乃ち廣く婦女を募り以て看病の術を教ゆるとを勉めたり然るに此事大に成功し此校に養成せられたる生徒等多く去て病院に入り或は家室に行て其術を施せしに古風の看病法に優る數等なりしを以て忽ち世間の稱讚を博し爲めに同種れ學校續々處々に起るに至れり是ぞ看病婦學校の權輿とぞす

然るに數年の後米國の人民も亦た大に此事に注目すべきを悟りナイティンゲール女が創設せし學校の摸範に傚ハんとて醫士某を撰で英國に遣ハし其學校の組織管理の方法等を學ばしめ歸國を待て委員を撰び茲に愈々看病婦學校を設立し之を米國屈指の一病院ゑ連帶せしめたり此の校や當初ハ僅々數室を看護するに過ぎざりしも漸々と好結果を顯ハし院中至難の患者を悉く委托せらるゝの勢ゑ至りしかバ病院の醫士等乃ち該校の委員に請ひ

更に看護の區域を廣めしめ遂に以て盛大なる看病婦學校となせ此に至れり此に於て他方皆風を望で賛成を表し頻りに同種の學校を設立し今や米國の都府到る所として看病婦學校の設あらざるは稀なりと云ふ

當今英米二國に於て此校に入學を志願するもの甚だ多く學校は毎に其需に應ぜると能はざるの景狀なるが其志願者たるものは概ね嘗て十分の教育を受け社會に尊信せらるゝ淑女多く又其年々卒業するもの數多ありと雖ども或は病院に或は避難處に或は普通の家に招かれ看病の業を取るとを得るを以て空しく無職の徒たるを免るゝのみならず或は多額の給料を收むるとを得ると云ふ

我儕之を名醫に聞く今や日本は醫術日に月に進み良醫其人には殆んど乏しからずと謂ふべきも奈何せん看病法教授は如きは未だ其端緒にだも就かざるの有樣にて良醫良藥も不法無術なる看病人の爲め空しく無効に屬するとあり治すべき疾病も爲めに治せず死すべからざりしものも爲めに死せしむるとを免れず父母妻子の看病親切ならざるにあらずと雖とも看病其法を得ざるが爲め其親切も反て患者を傷害するに至ると往々之なしとせずと云ふ此れ嘗に一醫の言に非ず我儕も亦實地目撃して常に遺憾とするところなりき

以此我儕今般相謀り乃ち京都に地をトし亦た此看病婦學校を設立せんと欲す而して此事や既に他國に於て彼が如く昌榮するあり必ずや我國に於ても亦同く昌榮し亦た同く國民を裨益すると蓋し疑ふに及ばざる也

然り而て我儕此校を起すに當り看病法の教授及生徒監督の事などは幸に極めて看病に熟達せられ此事に於ては米國にても有名なるリンダ、リチャード女其人を聘せるを得たれば彼女に專任せんとす同女は米國に於て看病婦學校を卒業し其後ニユーヨルク、府にある盛大なる病院に附屬せる看病婦學校にて夜間の看病を監督し此に勤勞せらるゝ二か年半、夫より遠く海外に遊學しロンドン、エヂンボロ及パリス、等に往き歐羅巴諸國に行はるゝ病院中の看病法を視察し又英國に於ては看病婦學校管理の狀況を精細に研究し彼のナイチンゲール其女にも面會し親く其經驗をも問ひ後ボストン府に歸るに及て同府公立病院の看病婦學校の校長となり其職に在ると殆んど八年此際同校は米國中屈指のものとなるに至りしは同女の力蓋し其多きに居るものなり然るに同女は俄に其職を辭し遠く日本に來り遂に我此校に盡されんとする由縁のものは頗る同女に說あるなり同女曰く米國に

は既に多く看病婦學校のあるあり而て日本未其一を見ず米國は教師其人に乏しからず而て日本未だ之なし今や我務は米國に盡すよりも寧ろ日本に盡すに在りと甚精神至誠實に視るべきなり嗚呼此藝術あり此經驗ある此女にして此精神と至誠あり此校豈成功せずして止むとあらんや且つ又生徒の德性を養成薫冶せるの教師に至ては此も同しく米國の婦人よりして曾て頗る我國傳道の事に經驗ある或他の女教師に托せんと欲す同女は專ら聖書と教理とを教授し市中傳道は方法より病苦貧困の人に布教するの業を教ゆべし蓋し我此校の目的は獨り人の肉體を看護するのみならず又た其靈魂をも慰安し之をして眞の平康と喜樂を得せしめんと欲すれば斯くて又別に內國の婦人にして基督教篤信のものを撰擧し以て熟舍內の取締をなさしむべし

此外此看病婦學校に連帶せる一の病院を設置し以て實地經驗の便宜に供せんとす此病院は前に神戸萬國共同病院長兵庫縣病院臨時出張醫士及岡山病院顧問等の職に在りし米國醫學博士ベルリー氏は管理するものとす同氏は衞生法及外國看病、眼科看病、內科看病、產科看病、其他繃帶、電氣、按摩の適用法等凡て特種の看病法を教授すべし(未完)

○お化粧　東京は元來清潔淡泊の風をよしとし澁く淡きを東の美榮とは申したるに近年しきりに華美のさまを好み赤色のはで摸樣も余りにめづらかならぬ樣となり特に白粉の塗り方を上方風にすると多く行はるゝは好ましからぬ流行と云ふべし此頃の基督教新聞にも此の事は注意ありたるは甚だ至れる教えなり願ふは教の道などに歸依し玉ふ方々より彼の外郡の媚を以て裝飾とせず潔き心と善き行とを以て內の粧飾とすべしとある聖語を行ひ玉はんとなり

○束髮帽　束髮の方々の奮つて帽子を戴き玉はんやう嘗ても述べ置たるが追々暑氣となり行くにつきては此夏こそ束髮帽とも云へると大に流行らせたく思ふなり束髮發起の方々はもとより當今束髮し玉ふ姫達は此の御覺悟ありたきとなり

○新女學校　と題して前号にかゝげたる陸奥氏計畫のことを倘ぶ傳聞せるに資本金二十万圓と募り教授寄宿の摸樣等一切西洋の風をとり純然たる洋婦人を教成すべき女學校となし玉ふ趣なりとぞ一新聞に同氏が公使となりて外行さるゝ由を記せども當今洋館を建築さるゝなどゝきけば斯るともなかるべく隨て右新女學校の設立も余りに隔りたる計畫にもあらざるべし

○イーストレーキ夫人　は其二男井イリアム氏を伴ひ暫らく米國へ歸省さるゝにつきて明治女學校の生徒方は送別會を六番町

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の島田氏宅に開き幸田女子の奏琴なども有り後ハ一同の寫眞をもとられて懇ろなる會合ありしよし斯て同夫人は去る十二日ゲーリック号に搭して横濱を出發ありたり吾人ハ同夫人ヨ親密の交濟ある上に常々日本女子の教育を心掛られたる方の此地を去らるゝとゆゑ心中惜別の情甚だ切なりき但だ彼地の女學雜誌及び女風の報告等をも送られたきやう委頼しをきたれバ此後其着するたびに掲げ出して讀者の覽に供ふるの樂あるべし

○女生徒の學科　森文部大臣にハ此程女生徒の爲に家事の一學科を設けたらんにも後日人の妻となりて一家を主宰するに効あるべしとの議を諮問せられたる由なり又衣服裁縫の事ハ從來女子の學科中にありしが今度更に割烹調理の實業をも授けらるべしときけり（六月八日日々新聞）

○娼妓　根津貸座敷現在の戸數ハ一百五十戸にして出稼娼妓の人數ハ九百三十八人此中東京原籍のもの四百十三人あり又品川の貸座敷ハ六十四戸にて出稼娼妓ハ五百七十八人此中東京原籍のもの三百九十五人ありとぞ此外吉原新宿千住等の外の娼妓を數ふれば夥しきものならん此れ皆人間外に墜落して世の不道德を惹き起す惡魔なり志あらん女子ハ奮激して之を救濟するの策を考ふること大切なり

○藝妓　名古屋長者町長島町の大小藝妓ハ今度いよく道路改修義捐金の爲めへ一戸に付大妓も三圓雛妓ハ一圓五十錢づゝ差出さとにきまりたるよし六月六日の金城新報に見ゆ

○織物業の熱心家　長崎縣南高木郡島原村の大竹某なる婦人は織物業に甚ふ熱心にて嚮に京都府の織殿に於て實業の傳習方を出願し未だ何等の指令を得ざれども此程態々出京し處々の工業を日々巡廻し頻に研究し居る由なるが婦人にハ稀なる心掛と云ふべし（六月二日中外電報）

○養蠶の傳習　福島縣北魚沼郡小千谷町の有志者ハ養蠶傳習所と云へるを起し專ら小千谷市場内の婦女をして養蠶の道を學ばしめゆくく共地の盛大をなからるゝよし生徒ハ給費自費合せて二十五人ありと云ふ美擧と云ふべし

○佛蘭斯女學校　長崎梅香崎町なる同校も天主教會より日本貧民の爲めヨ設立したる所なるが昨年末の調査に依れバ教師外國婦人四人日本生徒十七人あり設立の初めハ生徒七十名もありしが後ち三十余名に減じまた有の數ヨ減じたるものなりといふ（五月廿九日鎭西日報）

○稀有の女丈夫　佛京巴里に住めるアスチードハルセールと云へる婦人ながらも劍術を善くし且つ共豪膽にして物を恐れざ

るゝ尋常の男子の及びも付かぬ程にて去頃嘗てシエルビイと呼べる少女が此婦人と口論を爲したる折シエルビイ戯が此婦人を馬鹿者と呼びたるを怒りて直ちに之を果し狀を宛て有名なるウオートルローの野にて決鬪を爲したるとありしが此婦人は凡そ世の人の恐れ危みて敢てせざる事とあれば何如なる事をも之と試むべき積りなりと見え前に佛國大醫パストール氏が狂犬病毒接種法を發明したるときは眞先に行きてパストール氏に接種を乞ひ又此頃瑞典醫師某が人を氷結せしめて無感覺の有樣に至らしめ一年若くは二年を經たる後体力も精神も健康もソツクリ其儘元の有樣に醫せしむるの術を發明したると聞きて早速右の醫師に書面を送り自ら其試驗を受け度き旨を云ひ送り其返答を待居る由なるが件の醫師は右の試驗を行ふとを辭退せるに於ては前に其敵なりしシエルビー孃と申合せて共に阿非利加のコンゴー地方に赴きドブラザ氏を助けて其地方の土人を開明に導くとに盡力せんとの用意中なりと五月二十五日時事新報に見ゆ

○婚姻市場　ルーマニヤ國カーパシヤンス地方の西部に住める人民は毎年セントポール及びセントピータルの祭日に「ガイナ」山とて高さ五千尺乃至六千尺程なる山の頂上に市場を開き其地方にて年頃になり婚嫁をべき女子は皆其兩親に伴れて此處に集まり未婚の男子の採擇を待ちて婚姻の約束を結ぶの習ひにて例年此開市の前には未婚の女子ある家にては娘の母、伯叔母、祖母等を初め親族朋友の婦人等より夫々財物を贈りて結納物を助け其等の用意整へば結納物を手奇麗に拵へたる皮櫃に入れ花を以て之を飾り之を其家の最良の馬に負はせ又家畜其他總て世帶に要用なる品々をも結納物に附けて兩親が其宰領となり娘と共に市場に送る偖市場に到きば諸方より集まりたるものが一家族毎に別々に天幕を張りて其中に件の結納物を所狹き迄陳列し見物の男子の入來るを待つ男子の方も此日を晴と銘々及ぶ丈の綺羅を着飾り是亦兩親の同道にて此處に來り巡次に隅なく各天幕を見廻り其中に目に留まりたる娘を撰び定め其場にて直ぐに表向結納の儀式を執行する法なりとぞ尤も結婚の約束は前方より整へあるもの多き由なれども是非一度は此儀式を行はざるべからず又女子の方にては豫め結婚の約束あるは最も好む所なれども其地方は儀式なれば矢張り他人同樣市場に出でゝ衆人に見物さるゝを常とするなりと本月二日の時事新報に見ゆ

●男女思のかけはし　を購ひて一讀せるに僅々十四五枚の小册子なれとも眞に淫陋の文句を充滿し娘孃方の讀み玉ふべき者に非ぞ

●叢話

○男女交際論

時事新報ハ去る五月二十六日より六月三日までに男女交際論といへるを掲げ都合八篇にて終りたり吾人ハ前号に申し置たる事情により今ろの大意を茲にあぐれバ

(一)交際ハ男のみの事にすべきものにあらざるに女の仲間ハいと淋しきのみならず男と女との交際ハ絶てあるなし元來男女ハ電氣に云へる陰陽と同じき者ゆゑ陰陽相交りてこそ初て無限の情あるとかくも其間の交際を不自由にさせ之を等閑に附して顧みざるハ學者の罪なり(二)昔し折助小屋勤番小屋に男のみ集り殿中の奥向に女のみ集りたるときは反つて亂暴淫醜にして甚しき殺風景ありたるハ必竟男女を交際せしめざる害として見るべし(三)抑も男女の間には肉交と情交との二つあり然るに古の聖賢がたゞ肉交のみと心得て濫りに其間を隔離し男女相交りて情交を爲すとき南風の薫する如き愉快の双方にあるを悟らざりしは大なる不明なり(四)其證據には馬に毛ぼれ毛嫌ある如く人間社會にもさまぐの證據ありと論じ人ハ草木を見ても尚ほ目を喜ばすものなれバ男の目にも女を解語の花と認め女よりハ男を親て有情の松柏となし情交に於て無上のたのしみあるとなり(五)然るに女を閉ぢこめて男に交際させざるハ啻に女のみの不愉快にあらずまた男にとりての不愉快なり西洋にてハ女の取なしによりて男と男の間だ自ら圓滑となり社會の事務の半ハ女の力によりて行はるゝ程なるに我國の如く女を隱居させて世に出さゞれば國民の半ハ全く世に効なきものとなるべし(六)男女の交際を禁ずる社會の風習ハ甚しき束縛を逞ふし爲によく配遇を擇みて結婚する能ハざるのみならず夫婦も成るべく疎遠にある風をよしとし妻の病氣に頓着せざるを男の意氣地のやう思ひ舅姑も之に注意して夫婦の間の疎遠なるを祈るものあるに至る(七)斯く情交を禁ずるより男女ともに其情を言ふべからざるの地に洩し男ハ花街柳巷に女ハ俳優藝人に淫陋の樂を爲すに至ると其行は惡むべきも必竟憫れむべきところあり(八)故に此より花鳥風月茶話の會、唱歌管絃立食の宴、なんどに往來集會して男女ともに談笑遊戯相近づき相見るの仕組を設けて之を救ふより手段なかるべし其間に一二の危險ありとも此ハ火に燒ケ水に溺るゝものゝ多少ある如し其故に全く火水を使ハぬと云ふも愚也宜く大膽に男女を交際せしめ古來の習慣を破るべしと云ふにあり時節柄よく機に投じたる論説と云ふべし人間ハも

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と交際の動物にして女も亦た人間なれバ其仲間に交際の大切なるとハ明白にて今更に同意を表するまでもなし然れど今ま男女を交際さするに至りてハ深くろの仕組なるものに注意せざるべからず物ハ極度より極度にカーるものゆゑ數千年來悉く情交をたゝれたるものを今全く自由にするときハ仕切たる火の氣を一時に放ち堰止たる大水と氣儘に汎濫さそるに同じく燒死溺死するもの記者の云ふ如く一二ハ少數には止まらざらん故に此よりして女なかまに交際ハ氣味を知らせんとせバ一に女と女との交際を盛んにそるにあり二に夫婦と夫婦との交際を盛にするにあり三につまある男と夫ある女とを交際さするにあり其後に至り初て獨身の男女同士をして自由に交際さするを可とそべし故に今日の有樣にても吾人が本誌ハ第二十一号に論じたる如く先づ有力なる婦人會を起して女と女との交をよくし第十三号に述べたる如く令閨夫と共に宴に侍べり夫婦と夫婦との交を爲そべしかくてのち漸くかの第三第四の段にも及ぶべき筈なり然るに今や第一第二の風習尙ほ行れざるに彼の踏舞の會など盛んとなりて夫ある妻も夫なき娘も紳士がたと群れ集ひひたすら西洋の風をまなびて自由に交際することをのみ樂しみとさるゝハ兼ても說置たる如く吾人の贊成せざるところなり時事新報ハ茲に男女と交際さすべき仕組と說かざ而も此の仕組や今尤も大切なる論點と云ふべき也

〇西洋禮式　（第八）

食事の禮

一〇御馳走の招待あるときハ速に且つ明らかに否やの返事を爲すべしその返事にもし參上すべきやう答えたらバ非常の事あるにあらずバ約を破るべからざ

二〇招待の時間どほり刻限をあやまらそして會すると大切なる禮儀なり若し早すぐれバ其家の邪魔となり遲すぐれバ振舞を無にし主人に迷惑をかけ來客に不愉快を感せしむるなり

三〇客すでに集りたるときハ主人若くハろの細君客中の紳士をしてめいくにテーブルへ導そべき貴婦人を案内すべし（宴席にてハ紳士一人づゝの貴婦人を其傍に案内し万事の介抱をなすを正禮とするなり）

四〇客の身分に應じてろれぐの席を備ふべき必要あらバ主人宜しく之を調ふべし

五〇又身分のとに關らさるときもろれぐに席順を調ふるハ大切なり先づ遠來の珍客女ならバ主人之をテーブルに案内し紳士ならバ主人の細君之を案內すべし其他夫ある婦人ハ獨身ハ

婦人よ先ち歳長ケたる婦人ハ歳若きに先だつべし

六。食事の仕度調ひたるよしの知らせあらバ主人ハ右に述たる貴婦人に已が腕をかし他の客に目禮又ハ挨拶して先づ案内なし他の客ハ順を追ひて之に隨ひ食堂よ入るべし

七。主人と其案内する貴婦人の次よハ主人の細君と其案内せる紳士との行くと禮とも尤も時としてハ細君と其連とハおとに止り客を順々に行かせたるのちより入るとあれどもかくても數多の客の就くべき席座定らず大に迷ふとあるべきをもて大抵ハ正式の如く第二番に入ると宜しとするなり

八。テーブルに就くにハ主人の細君主席につき案内したる紳士と其の右につかせ第二位の紳士と其左につかそべし又主人ハテーブルの末席につき案内したる貴婦人を其右よつかせ第二位の婦人を其左につかすべし

九。テーブルに就たらバ先づナプキン(手布)をとりて膝の上に布き其中に包みてあるべき麪包を皿の左の方に置くべし

○女學隨筆をみなへし(一)

本号を初として此より續々かゝげ載するとみなへしハ平山道明ぬしが數多の文書よりをみなに關ハりある條とかきつめて巻となしたまへる者の寫しなり此頃社友坪井正五郎君の許より忠貸ありて世の姫達に示せとの好意をも添られたれバ其うちよりかしこ此處と抄出して主人が斯道の為に苦辛したまへる趣を敬ゐし且つ君が好意の切なるを謝せんと云ふ

今の世女の髪をいひて後を左右へわり出したるところとつとゝ云ふをあづまにてハだをといへり源順の集に　わすれざもおもほゆるかな朝な〳〵ねし黒かミのねくたれのたを。うつぼの物語藏開の巻にたゞおほとの如もりなバ御ぐしよたおつきなんず。金葉集戀の一に　朝寐がみたゞ手枕にたはつけてけさハかたみにふりこして見るなどありたりたをと同じとなりたゞしいにしへのハ枕よあたりたる所にたのづから出來たるをいひ今のハことさらにつくるなり(玉勝間萩の下葉の巻)

西行法師心を雲水にひとしくして國々をあまねく廻りて暮つかた津の國江口の川竹の青樓に一夜をあかさんと請けれバ若き遊君出て此所の掟なれバひとり旅ハとめざる由を申侍るよ

世の中をいとふまでこそ難からめ仮の宿りを惜むきみかな

と讀れしかバ彼遊君かへしよ

世をいとふ人としきけバ仮の宿に心とむなとたもふ斗りぞ

とよミてやがて留けるとのや然してよりのちしくまで近國を廻りよきうたどもあれバふミをそへておくりけるとぞきまたあ

る處にて雨降り來りけるにある家に立よらんと來り見るに年たけたる老女のおまもりを置とてたちまとひければ西行

しつかふせやをふきろわつらふ

と云ひ置ければ彼老女

月はもれ雨はとまれと思ふまろ

と答へたりとかや德孤ならず必ず隣あるとなれど此ころのやうしづれ女などもいとやさしきとぞもにころ(理齋隨筆)

漢の李夫人は無双の美女なり武帝の寵愛亦比類なし一旦病に臥したり帝自ら幸し玉ふ夫人更に衾を被りて謝して曰ふ妾久しく病にかゝりて形替り色衰えたりとて竟に見へず帝悦ばずして歸り玉ふ夫人の兄弟せめて曰く一度び君に見へて兄弟のとをも遺言したまはゞ可ならんと夫人の曰く見へざるは兄弟のためなりとが容貌のうるはしきを以て賤き家より愛幸を得たりろれ色を以て人につかふ者は色おとろへて愛うすく愛うすければ思必ず絶るなり帝我をつねに思ひ玉ふも我平生の容を以てのゆえなり今は顏色衰へたり帝見たまはゞ穢すてゝ思ひ絶え玉はん況んや兄弟には恩おちじやといふて遂に見えずして死ければ帝しきりに戀ひ悲みて李廣利を海西侯ふ封し李延年を協律都尉ど爲せらる帝倘ほふ悲み方士李少翁を召して返魂香を燒たまへりとぞ(漢書に據る、東湖隨筆)

○衣物と身分

衣物と身分とはつねによくつり合ふべし何如に南部御召縮緬ふど品柄よしといふとも身分卑しく平生着なれせぬ人の着るときは何となうおちつかぬやうに見ゑて格好わしきものなり此は富める人貴き人などの如く平生かゝる品を着なれたる人は特更によき衣物を着るとも思はず身につくるより思ふやうに体に合ふとなれども身分いやしき人は自ら心をぢして人前に氣はづかしと思ふ念あるより自然と外形のよからぬものなり故に衣物は身分相應にすべし品格もなく卑しかなる人の繁忙として縮緬御召などをつくるよりは唐綾二子か絽せんなどにて恰好着たる方はるかに見ばえするものなり近來洋服をつくる貴婦人などもまた此に同じき弊あり常々の着覺なくて時々ふ着け玉ふより恰好はなはだ惡く至て貧相に見ゆるなり故に晴れの宴會などに出で玉はん時平生着なれざる貴婦人はことさらに洋服をつけ玉ふべからず矢張和服の式物を用ひ玉ふぞ宜からん尤も其覺悟にて平生より着つけ玉ふ方は此に云ふべき限りふあらず

○腹帶のこと

むらおびしむるとは最と古くよりの習はせなるべし源氏物語に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

いゝはづかしとおもひ玉へりつる腰のしるしと云へるものゝ此の帶のことといへり又一書に我國のいはらおびハ神功皇后三韓を征し玉ふとき御腹に宿りたまえるを軍をハりて凱旋する日まで生ませたまふまじと祈りて御腹を縛りあそバしけると初めとぞとあれバ此の帶しむるとハいと〳〵ふるきことなるべし然るに近年洋醫の說行ハれて腹帶ハ胎子に害ありと云ひ初めたるより其理たるものゝ多く吾人の知れるものにもうくせし人少からず然るに何れも難產して特の外苦しミたる多ければさてハ此說も用ひがたしと云ふに至れりよりて思ふに西洋婦人ハ腹帶せざるをよろしとするは必竟平生其腹をつよくしめて腰を大きくするの習ハせあるより胎子あるときとても特更に此帶をしむるに及バざることとなれりしならんと考へらる然るに我國の婦人の如く太き帶をいと緩やかに卷きつけて平生腹を自由にするものハ是非とも腹帶を用ゆる方よろしきならんの要するに日常の習慣いかんによりて時々の心得も違ふものゆゑ何事をも西國の風にのミせんと思ふも僻事なるべし女子教育も未だ起らぬを早くも男女交濟を盛んにせんとし又ハ彼の蹈舞乘馬の如きものをのミ先づ流行させんとする誤ハ此理に似てやゝ同じき過ちなりと云ふべし

○米婦人希臘の婦人に遺れる文

むかし希臘と土兒其との間に戰端を開き干戈多年治まらずして希臘の人民ハなハだ難澁したるころ米國コンネクチカット州の婦人たちは貧富ともに若干の金を義捐しまた毎日多少の時間を減ぎて手づから衣服なんどを調え船にのせて彼地の婦人へ遺りたることありその時そえて遺りけると云ふ文を左に譯し慈善におつき美事のをもむきを示すと云ふ

希臘の貴婦人たる吾等の姉妹にして且つ友達たる人々よ妾等ハ幼きときより御身達の住ミ玉ふ土地氣候のことを承ハりて常に慕ハしく存じ參せ今も妾等の兄弟またハ夫と共に彼のホーマー、アリスタイデス、ソロン、ソクラツトなんどの生れ玉へる御地を愛すべきいはれを承知いたし居候へバ昔し榮華にさかえたる希臘の名譽を思ふ心バにハ今ま其地に住ひ玉ふ方々に對していと切なる親愛を致させ候ぞうしされバ此頃土兒其の領地となりたる邊に住ひ玉ふ方々のいと難澁したまふとまたハ其難澁をも耐え忍びてうくも長く又かくも尊とく自由と獨立との爲に爭ひ玉ふ御有樣にいと〳〵深き同情を保ち候なり然るに先頃博士ホウエ君御地より歸り玉ひていろ〳〵の物語あらせ玉へるより御身達の艱難し玉ふよしと一層ふかく

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

承はり候へば御身達のうち洞穴にかくれチリーブ樹の下にひそみて敵のあしをとにも掛念しつゝ戰に打死したる御親戚のことをしも歎き玉ふなどの有樣を目に見る如く覺え候ひき。妾等の姉妹にして友達たる人々よ妾等の心は今御身達の爲に血を吐く思候かし妾等は今戰やぶれて保護の人を失ひ死するよりも尚つらき害毒を日々の恐とし玉ふ御身達の或はさまよひ或は事足らぬ或は歎き玉ふ事々につきて始終祈禱いたし居候此度の船便は神の御惠により御地まで安着し得なんと存じ候へば神が妾等に下し玉へる御惠の一分を御身達の手に受取り玉ふらんそも妾等のうちよは貧しきも其力に應じ幼きも樂みて勞を助け御身達と御愛子等の麪包を食べ衣類を着たまふとのみ望み參らせ候もし御身達妾等が休日をすてゝ希臘の爲に針を運ばせたりとの喜をもて顏のいさゝかにても照り眼のわづかにもかゞやくを見たまひ又日々に仕事して今日の生計を爲す貧しき賤女等が喜びて僅かの金を捐つる上に御身達に送る衣物の一枚をも増さんとて其休息の時間をも偸みて仕事せしよしを思ひ玉ひ又妾等の仲間一同にはまことに喜ばしき活潑の精神の行はるゝことを知しめさば御身達がいま不運におりたまふ御歎きをも寸間だもちらし得なんやと存じ參らせ候。

妾等は合衆國中にていと小さき國の一方に住むものに候へば此等の進物は尚大きく且は富たる都より差上るものよは固より較ぶべくも候はねども妾等は救世主の御名によりて之を祝し且つ祈りて御手許に送り參らするなり。又妾等は同情の尊きことを深く承知いたし忍耐の甲を心に着せ悲の針を心より拔去るは皆同情の德なるべしと存じ參らせて斯く隔りたる此國の片田舍にもまた尚繁き都地にも御身達の御事はみな憫れと信との心をもてつね〲記臆いたし候趣をも知らせ奉り切ては御身達の心を慰め參らせんとて斯く一筆をしめし上候也。妾等の姉妹にして且友達たる人々よ妾等は基督に伴ひて手を伸ばし太洋のあなたにまでさし出し候妾等は基督の十字架の邪塔(回々教徒の會堂)の上に登り希臘國旗の新月旗(土耳兒の國旗)の上にひらめくことを祈り又御身達の愛子等が希臘の昔しの自由を恢復し暴民がふみつけたる癈都を再び建立したる祝をあげ玉ふ日を祈り又御身達が今一應本國の榮華に歸り玉ひて過る危難と災厄のうちより天國に入るべき賞美をひろひ玉はんことをひたすら祈りまいらせ候

コンネクチカット州ハートホルド希臘會委員書記

千八百二十八年五月十二日　リヂア、サイゴウルネー

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○批評

向後は女學に關係ある新著書を批評して公平に其よしあしを述ぶべきに付本誌愛讀の方々ハ之によりて其書の求むべきや否やを定め玉ふべし

婦人地球週遊記　一册(百六十三頁)定價七十錢。

此書ハ明治十年のころ英國のブラッセー女が天下を週遊したる折の日記を内田彌八氏の抄譯したまへるものなり太西洋中の困難、手涅立巾山上の探窮、加巴那の蝗の雲、紋克斯平運号の失火、希琉山の絶奇、なや驚くべく喜ぶべき記事あまたあれども小册子中にぬき出し玉へるより止み難かりし歟記事みな簡單にしてやゝ粗畧に失するの憾あり然れども日本に關するの條はやゝ濃かきを覺えて女史が觀察の到れると感じ又其惡口の上手なるに失笑する所ろ尠からぞ要するに一女子にして天下を週遊したる豪爽の氣揚すべく臆病なる我國の娘孃をして一讀せしめバために志望を大ふするの利益あるべきなり

●御ことわり

本号にハ余白なきに付伴傳の圖のみを掲げて文辞を次号にゆづり束髪の圖解、女學校集報の二、寄書詩歌、西洋婚姻談の三、日本婚禮風俗集の五、等を皆次号まで掲載を延バしたり

●論説

女子教育策の一端

第一篇

湘煙女史　中島俊子

世上各貴賤貧富ノ差ヲ以テ其教育ヲ異ニスルト雖モ其基ク處ノモノハ特ニ大ナル等差アルヲ見ザルナリ抑モ我邦女子ノ教訓ト為ス處ノモノハ悉ク支那渡來ノ遺訓ナルカ若クハ之ノ遺訓ノ意ヲ摸造シテ編纂セシモノニ外ナラザルナリ夫レ等ノ數書ヲ一集シテ之ヲ評稱センニ應サニ如何ト呼ブ可キカ種〻ノ粧飾ヲ加ヘテ之ヲ言ヘハ或ハ賞譽ス可キ語ヲ呈出センモ知ル可カラズト雖モ其實漫ニ人ヲシテ行尸飯囊タラシムルノ害物ト謂フモ敢テ謬誤ナキモノヽ如シ依テ余屢ハ謂ラク若シ斯ノ如キ遺訓ノ世ニアラザリセハ或ハ粗野朴訥ノ臭氣ヲ免レザルモ猶今日ノ如キ無氣力ノ婦女子ニ至ラザラシメシナラント實ニ女子ノ進化ヲ硬塞セシ處ノモノハ遺訓ノ力モ亦與リテ大ナル哉余ノ説ク處ノ遺訓ナルモノハ既ニ世皆知ル處ノモノナレバ茲ニ詳明ヲ要セズ

然ラハ其遺訓ハ徹頭尾以テ悉ク弊害物ト云ハンカ否然ラス若シ之ヲ細微ニ分折スル時ハ蓋シ必スシモ取用スルモノナキニ非ル可シ然ト雖モ今日ハ舒〻ニ之ヲ改良スルノ日ニ非ズシテ英邁果斷以テ往日ノ遺臭ヲ拋擲シ新鮮ナル妙香ヲ世ニ布クニ非レハ何

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ヲ以テ數百年習ヒ性トナリシ遺臭ノ勢力ヲ放逐シ去ルヲ得ン乎女子ナル者モ齊ク宇宙間人間ト名クル範圍中ノ動物ナリ然レ𪜈今日迄之レヲ見ルニ殆ンド同範圍中ノ動物ナラザルモノヽ如シ文人墨客ヲシテ之ヲ評セシムレバ其無爲無慾ナルヿ神仙的ノ如クナルモ翻テ之ヲ見レバ蠢愚若クハ不具的ナルモノヽ如シ重簾ノ底深窓ノ裡艶姿花ノ如クナランヲ望ミ嬌舞蝶ニ比ス可カラザルヲ羨ミ終日徒ラニ眉黛ヲ畵クニ非レハ絃歌ヲ弄シ僅カニ茶花ヲ學ビ縫針ヲ爲ムルヲ得レバ輙チ以テ女工完備者ト爲セシ婦女子モ今ハ世ニ在リテ喋〻女子ノ任タル重大ナリ豈輕視ス可ケンヤト說キ或ハ女子ノ改良忽カセニス可カラズト論ジ之ヲ新聞ニ之ヲ演說ニ殆ンド世上ノ一問題トナリシハ實ニ女子ガ人間動物中ニ入籍スルノ時機到來ト謂ツ可シ豈之ヲ賀セザル可ケンヤ今又女學雜誌女子敎育策ノ問ヲ發セリ美ヒ哉問ヤ余モ亦動物ノ一婦人ニシテ將ニ人間中ニ入籍スルノ時機ニ遭遇スル處ノモノナリ而今此ノ問ヲ得ル余寧ゾ默〻ニ付ス可ケンヤ依テ余茲ニ未タ全キヲ盡クス能ハズト雖モ其一端ヲ述ブ取捨ハ讀者ノ意ニ任ゼン而已

今日ハ女子ト雖モ既ニ小學校師範學校其他多ク敎塲ノ設ケアリテ各人〻ノ望ミニ供フルヲ得ル未ダ以テ間然ナキモノト爲ス可カラザルモ今假リニ以テ完然ナルモノト爲シ而其女子ノ未タ學校ニ入ラザル前即チ家敎ニ付テ聊カ論セント欲スルモノハ今日女生徒ガ學校ニ於テ敎ヲ受クルノ景狀ヲ視察スルニ生徒ニ於テ其敎師ガ出精シテ敎ユルダケノ價直ヲ有セザルモノヽ如シ敎ユル者ト敎ヘラルヽ者トノ間ハ宛モ兩個ノ雄士ガ相憤鬪スルモノヽ如クナラザルヲ得ズ憤鬪中ニ相ヒ兩立シテ一モ相顧慮スル處ナキヲ以テ互ニ已レノ有スル處ノ勢力ヲ出スヲ得ルナル可シ若否ラズシテ一方ガ唯他ヲ見テ相關セザルモノヽ如クスル時ハ何ゾ他ニ於テ十分ノ力ヲ出スヲ得ンヤ

今日ノ敎育被敎者ノ間ヲ見ルニ殆ンド一士眼ヲ注ヒデ將ニ進マントスルノ勢アルモ他士之ヲ避テ成ル可ク其關係ヲ絕タント欲スルモノヽ如クス譬ヘバ敎者滿腔ノ力ヲ盡シ之レニ敎ヘ然ル後其解スルヤ否ヤヲ問フモ輙ク之レニ應スル能ハズ再三之ヲ詰問スルニ及ンデ漸ク之レニ答ルモ宛モ唖人ガ手目ヲ以テ其意ヲ論スモノト齊シ是レ其未ダ學校ニ入ラザル前家敎ノ宜シカラザルニ因リテ以テ此ノ不活潑ノ生徒ヲ現出ス我邦女子ノ不活潑ナルハ啻其父母ガ獨リ敎育ヲ誤ルノミナラズ一般ノ風習以テ然ラシムルモノナリト雖モ父母今斷然其風習ヲ脫却シテ女子ガ生ヲ之ノ世ニ受ケ未タ世習ニ染マザル前ニ於テ之レヲ敎育スル者ハ即

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

父母ノ任ナリ語ヲ替テ曰ヘハ父母ハ其子ヲシテ學校ニ入ラシムルノ下敎育ヲ為スモノナリ依テ今簡單ニ女子ガ世ニ生レ來リテ十歳前後ニ至ル迄ノ敎育策ヲ述ベン其後ト雖モ父母其任ヲ抛擲スル能ハザルハ勿論ナリト雖モ夫ヨリハ學校ノアルアリテ之レヲ敎育スルヲ得ルモノナレバ入校後ノ注意ヲ說クヨリ寧ロ入校前ノ必要ヲ說クニ若カズト信ズ（未完）

廣告

○第二回點取文題　女子敎育策

右文題ニ對し寄答の方ハ來る六月三十日迄に其答文を寄送あらんことを請ふ。寄送の答文ハ社評の上優劣と定め甲乙丙三等の点を得る者ニハ各左の賞酬を呈す

甲點者　女學雜誌　三十冊　無代價呈上
乙點者　同　二十冊　同
丙點者　同　十冊　同

因に云ふ。第一回點取文始末ハ本誌第二十二号にあり

本鄕弓町一丁目廿番地　女學雜誌社　編輯部

○女學雜誌合本　從第十一号至第二十号

右出來上り候ニ付左れ定價を以て需に應ぞ

別製　定價五十錢。郵税廿二錢。通運便十錢。
並製　定價四十五錢。郵税十六錢。通運便八錢。

右の定價及運送賃にて發送いたし候に付御注文の節ハ郵送若くハ通運便何れに致すべきや明記を乞ふ

社告

●正誤　前号内國女學校集報のうち靜女塾生徒人數れ段中外に通學十五人の七字を脱そ

●拜謝　近藤賢三追悼の文章等惠送さるゝ方數多有之一々御禮申上ぬね候へ共其遺族及社員一同謹で拜謝仕候也

●投書　の來着せる者數多有之候へ共紙面余白なきに付掲載を延引致候間悪からぞ追々登錄の心得に付不惡御承知を乞ふ

女子詩文添削

謝料ハ多少を論せぞ尤も郵券と代用そるも妨なし但草稿ト同時ニ送附する事●返稿を草稿到謝の日より二日間とす●添削を悉く本會長

河村巖城先生

に依賴する者なれバ其丁寧精密なる元より他家の及ぶ所に非ぞ●原稿中傑作と認むる者ハ一々寫置き明治才媛詩文なるを編集し出板の上無價にて呈上すべし尚女學雜誌及女學叢誌等にも時々掲載を乞ひ勉て閨媛諸君を奬勵せんとそ江湖有志の才媛諸君よ冀くと陸續投稿有ん事と

○東京新橋日吉町十二番地荒井方

東洋言志學會

○寄宿舍新設

本校從來寄宿生を謝絶致居候今度學校の傍に之と新設し貞實なる取締を附け置て娘孃と保護す依て一旦謝絶致候方々に之を報じ且つ地方より來學わるべき方々の直に本校へ向け御掛合あらんことを告ぐ

東京飯田町一丁目六番地　明治女學校

教育毎週新報

●毎日曜日發刊壹部定價金三錢●見本壹部ニ付郵税壹錢郵券代用不苦每号

第壹號　六月廿日發兌

●弊社今回右新報ヲ發刊ス其記載種目ハ官令。敎育上學術上ニ關スル一切ノ事ハ勿論普通日用往復文。紀事。論文。祝文。英文。物理問答。文書類ノ講義。等總テ敎育。學術ニ關スル事ハ細大漏サズ揭載シ又詩文ノ投稿ハ諸大家ノ批評或ハ添削ヲ加ヘ又闘詩。闘文ノ課題ヲ與ヘテ學術奬勵ノ爲メ高点者ヘ相當ノ報酬ヲ爲ス可シ乞フ諸君續々御注文且ツ御投稿アランコトヲ希望ス

●發行所

●東京本所區●緑町壹丁目●第拾七番地

教育毎週新報社

英國貴女ブラッセー女史著
內田彌八譯述增補

婦人地球週遊記（ふじんちきうしうゆうき）

洋裝精美全一冊定價金七十錢但シ郵稅ハ自辨可仕候

英國ノ貴女ブラッセー女史ハ學識才能共ニ倫頓婦人交際社會ニ名聲ヲ顯カシ婦人ノ泰斗女子ノ龜鑑ト仰ガレシ后我明治九年七月一日自カラ卒先シテ同行ノ衆人ヲ誘ヒ艦船ヲ裝ヒ萬人柏手鳴動ノ中ヲ心氣爽然トシテ地球萬國ヲ週遊スルノ途ニ上リ到ル所王侯皇后皇紳士貴孃等ノ優待ヲ受タリ當時歐州全般ノ耳目ハ女史ノ一身ニ注ギ三人寄レバ必ズ女史ノ雄壯活潑ヲ賞セザルコトナカリシト云フ本書ハ女史ガ其週遊萬國ノ男女交際男女同權男女主僕ノ有樣ヨリ男女各自ノ風俗男女宴會ノ有樂其佗政治法律生活之摸樣等各國ノ風俗人情ヲ記シ殊ニ我日本ノ事ハ深ク女史ノ感覺ヲ惹シモノト見ヘ日本ノ記事ハ殆ンド全書ノ三分ノ一ヲ占メ我國婦人衣服ノ制頭飾ノ狀ヨリ教育品行及智識ノ程度男尊女卑ノ弊害ヲ詳ニシ之ヲ改良進歩セシムルノ法方幷ニ政治法律生活ノ摸樣官吏等ノ怯懦憶病ナル有樣洋服着方ノ不法ナル事及日本ノ未來記等女史ガ才學兼備ノ筆ヲ以テ悉ク明記セシモノニシテ我同胞ノ善シト思フモノヲモ却テ痛ク誹謗スルアリ又惡シト思フコトヲモ尚頗リニ賞贊スルアリ記事着々人ノ意表ニ出デ、一度卷ヲ開ケバ喜憂交モ胸裏ニ迫リテ措ク能ハザルベシ乃チ地球萬國ノ珍事奇聞集メテ此書ノ中ニ在レバ苟モ地球上ニ生活スル者殊ニ我日本人タル者就中御婦人達ノ必讀スベキ書ニ御座候付テハ今般弊店ニ於テ發賣仕候間陸續御注文奉願上候

發兌元 東京日本橋區本石町二丁目 上田屋

賣捌所 博文本社 兎屋 鶴聲社 泉市

定價

一冊	四錢	郵稅一錢	（但府內無稅）
十冊	卅八錢	郵稅十錢	（同前）
廿冊	七十錢	郵稅廿錢	（同前）
卅冊	一圓	郵稅卅錢	（同前）

一ヶ月分女學雜誌代價	十二錢	府外ハ十五錢
二ヶ月分同	廿四錢	府外ハ三十錢
三ヶ月分同	卅六錢	府外ハ四十五錢
半年分同	六十四錢	府外ハ八十二錢
一年分同	一圓二十錢	府外ハ一圓五十六錢

廣告

一行	一回	前金拾錢
同	三同以上	一割引
同	六回以上	二割引

（廿八字詰）

但し不道德なる事物の廣告之謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送と乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評そ

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町（大賣捌）	嚴々堂
東京神田區雉子町	團々社支店
同神田區佐柄木町	東海堂
同日本橋區新葭町	真明堂
同日本橋區馬喰町二丁目	自由堂
同京橋區木挽町壹丁目	萬字堂
同本鄉區元富士町	盛春堂
同本鄉區春木町二丁目	解明堂
同牛込區肴町	活神堂
大坂備後町四丁目	岡島支店
伊勢國松坂白粉町	家里初枝
東京芝西久保櫻川町（支局）	萬春堂

發行所
東京本鄉區弓町壹丁目廿番地
本局 女學雜誌社
持主兼印刷人 瀧田正義
編輯人 巖本善治

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

婦人地球週遊記

内田彌八譯述
増補

英國ノ貴女ブラッセー女史ハ學識才能共ニ倫類婦人交際社會ニ名聲ヲ羅カシ婦人ノ泰斗女子ノ龜鑑ト仰ガレシ后我明治九年七月一日自カラ卒先シテ同行ノ衆人ヲ誘ヒ艦船ヲ裝ヒ萬人柏手鳴動ノ中ヲ心氣爽然トシテ地球萬國ヲ週遊スルノ途ニ上リ到ル所王侯皇后皇紳士貴孃等ノ優待ヲ受タリ當時歐州全般ノ耳目ハ女史ノ一身ニ注ギ三八寄レバ必ズ女史ノ雄壯活潑ヲ賞セザルコトナカリシト云フ本書ハ女史ガ其週遊萬國ノ男女交際男女同權男女主僕ノ有樣ヨリ男女各自ノ風俗男女宴會ノ有樂其佗政治法律生活之摸樣等各國ノ風俗人情ヲ記シ殊ニ我日本ノ事ハ深ク女史ノ感覺ヲ惹シモノト見ヘ日本ノ記事ハ殆ンド全書ノ三分ノ一ヲ占メ我國婦人衣服ノ制頭飾ノ狀ヨリ教育品行及智識ノ程度男尊女卑ノ弊害ヲ詳ニシ之ヲ改良進歩セシムルノ法方幷ニ政治法律生活ノ摸樣官吏等ノ怯懦憶病ナル有樣洋服着方ノ不法ナル事及日本ノ未來記等女史ガ才學兼備ノ筆ヲ以テ悉ク明記セシモノニシテ我同胞ノ善シト思フモノヲモ却テ痛ク誹謗スルアリ又惡シト思フコトヲモ倘頻リニ賞賛スルアリ記事着々人ノ意表ニ出デ、一度卷ヲ開ケバ喜憂交モ胸裏ニ迫リテ措ク能ハザルベシ乃チ地球萬國ノ珍事奇聞集メテ此書ノ中ニ在レバ苟モ地珠上ニ生活スル者殊ニ我日本人タル者就中御婦人達ノ必讀スベキ書ニ御座候付テハ今般弊店ニ於テ發賣仕候間陸續御注文奉願上候

價金七十錢但シ郵税ハ自辨可仕候

發兌元 東京日本橋區本石町二丁目 上田屋

賣捌所 博文本社 兎屋 鶴聲社 泉市

定價

一冊 四錢	郵税一錢	（但府内無税）
十冊 卅八錢	郵税十錢	（同前）
廿冊 七十錢	郵税廿錢	（同前）
卅冊 一圓	郵税卅錢	（同前）

一ヶ月分女學雜誌代價	十二錢	府外ハ十五錢
二ヶ月分同	廿四錢	府外ハ三十錢
三ヶ月分同	卅六錢	府外ハ四十五錢
半年分同	六十四錢	府外ハ八十二錢
一年分同	一圓二十錢	府外ハ一圓五十六錢

廣告

一行 一回	（廿八字詰）	前金拾錢
同 三同以上		一割引
同 六回以上		二割引

但し不道德なる事物の廣告を謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評を

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町（大賣捌） 巖々堂

東京神田區雉子町 團々社支店
同 神田區佐柄木町 東海堂
同 日本橋區新葭町 良明堂
同 日本橋區馬喰町二丁目 自由堂
同 京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同 本鄕區元富士町 盛春堂
同 本鄕區春木町二丁目 解明堂
同 牛込區肴町 活神堂
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝

東京芝西久保櫻川町（支局） 萬春堂

發行所 本局 東京本鄕區弓町壹丁目廿番地 女學雜誌社

持主兼印刷人 瀧田正義
編輯人 巖本善治